学会彙報

○昭和五十八年度大塚漢文学会大会　六月十八日（土）
於　豊島区民センター

〔研究発表〕

一、庾信「詠画屏風詩」二十四首について　筑波大学大学院　中野　将氏
一、文潞公の詩について　筑波大学大学院　高橋　明郎氏
一、初唐詩と陳子昂について　筑波大学附属高校　加藤　敏氏
一、「詩経」と「楚辞」への視点　法政大学　安藤　信広氏
一、魯迅の故事新編について――非攻の墨子――　東京女子大学　伊藤　虎丸氏
一、名とタブー　福島工業高等専門学校　桜田　芳樹氏
一、阮籍賦考　山形大学　沼口　勝氏
一、古抄本論語義疏をめぐるいくつかの問題　東京外国語大学　高橋　均氏
一、新教育課程国語Ⅰの漢文　都立小川高校　青木木菟哉氏

〔総会〕

一、開会の辞　内山　委員
二、議長選出　上田　武氏
三、委員長挨拶　加賀委員長
四、諸報告
(1)、総務企画　向島委員
(2)、会報編集　伊藤委員
五、議事
(1)、昭和五十七年度決算　中村(俊)委員
(2)、昭和五十八年度予算　中村(俊)委員
(3)、委員選挙　次の十一氏が選出された
加賀　栄治　水沢　利忠　内山　知也　田部井文雄
伊藤　虎丸　高橋　均　中村　嘉弘　向島　成美
中村　俊也　松本　肇　安藤　信広　水沢委員
六、閉会の辞

○月例会

昭和五十八年十一月六日（日）
一、李賀における時間の形　筑波大学大学院　吉田　聡美氏
一、漢文教育の諸問題　都留文科大学　田部井文雄氏

昭和五十九年二月十二日（日）
一、游侠としての韓信　府中高校　吉原　英夫氏
一、陶淵明の帰鳥詩をめぐって　筑波大学　松本　肇氏

昭和五十九年五月十三日（日）
一、《四世同堂》における〝准備〟と〝預備〟の現われ方について　筑波大学大学院　阿部　博幸氏
一、江戸時代の助字研究について　攻玉社高校　国金　海二氏

○昭和五十八・五十九年度委員分担
委員長　加賀　栄治
副委員長　水沢　利忠　内山　知也
総務企画　志賀　一郎　田部井文雄　高橋　均　中村　嘉弘

若林　力　向島　成美　加藤　敏

総務庶務　向島　成美　松本　肇　吉田　聡美　増野　弘幸
阿部　博幸　中野　将

会　計　中村　俊也　高橋　明郎

会報編集　伊藤　虎丸　謡口　明　大上　正美　佐治　俊彦
安藤　信広　阿川　修三

会計監査　横山伊勢雄　田中　有

大塚漢文学会々則

一、本会は大塚漢文学会と称する。
二、本会は漢文学及び漢文教育の研究と普及とを図ることを目的とする。
三、本会の会員は左の通りである。
　1、旧東京教育大学漢文学会々員であって参加を希望する者
　2、その他入会を希望する者
四、本会の主な事業は左の通りである。
　1、総　会　　年一回
　2、例　会　　年約三回
　3、学会誌及び会員名簿の発行
　4、その他必要な事項
五、本会の役員は左の通りである。
　1、委員長　　一名
　2、委　員　　若干名
　3、編集委員　　若干名
六、役員の任務
　1、委員長は本会を代表し委員とともに運営にあたる。
　2、委員は本会の庶務・会計・企画を分担する。
　3、編集委員は学会誌の発行にあたる。
七、役員の選出及び任期
　1、委員長は委員の互選による。
　2、委員は会員の互選による。
　　委員会は必要に応じて委員を委嘱することができる。
　3　編集委員は委員会が委嘱する。
　4　任期は二年とする。ただし重任は差し支えない。
八、会員は会費年額三千円を納める。
九、本会々則の変更は委員会の審議を経て総会出席者の過半数の承認を得なければならない。

附則1、本会は昭和五十四年六月二十三日より東京教育大学漢文学会々則に代って発効する。
　2、本会の事務所を当分の間筑波大学文芸言語学系中国文学研究室に置く。

以上

編集委員（委嘱）
（哲学・思想）小林　信明・加賀　栄治・水沢　利忠
（文学・語学）鈴木　修次・内山　知也・伊藤　虎丸
（漢文教育）鎌田　正・金子　泰三・田部井文雄

漢文学会会報第四二号　昭和五十九年六月一〇日印刷
大塚漢文学会　昭和五十九年六月二三日発行
編輯者　伊藤　虎丸・謡口　明
　　大上　正美・佐治　俊彦
　　安藤　信広・阿川　修三
印刷所　東京都千代田区神田神保町三ノ一〇
　　株式会社　共立社印刷所
　　電（261）二〇二八
発行所　茨城県新治郡桜村
　　筑波大学文芸言語学系内（〒三〇五）
　　大塚漢文学会